

渡辺崋山と江戸時代の文化

令和7年4月12日（土）～6月1日（日）

展示室 特別展示室

大河ドラマなどで注目される江戸時代。渡辺崋山や同時代に活躍した画家たちの作品とともに江戸時代の文化も紹介します。

指定	作者	作品名	制作年	材質	形状	備考
重文	わたなべかざん 渡辺崋山	いっそうひやくたい 一掃百態	文政元(1818)年	紙本墨画淡彩	冊子	展示期間 4月26日(土)～5月6日(火・祝)
	わたなべしょうか 渡辺小華編集	いっそうひやくたい 一掃百態	明治17(1884)年	紙本版本	冊子	展示期間 4月12日(土)～4月25日(金)、 5月8日(木)～6月1日(日)
市指	わたなべかざん 渡辺崋山	りょうごくぼしのうりょうの ず 両国橋納涼之図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	掛幅	
	すずき が こ 鈴木鷺湖	りょうごくぼしのうりょうの ず 両国橋納涼図	元治元(1864)年	紙本淡彩	掛幅	
	わたなべかざん 渡辺崋山	りょうごくぼしづこう 両国橋図稿	江戸時代後期	紙本墨画淡彩	卷子	
	かねこきんりょう 金子金陵	てんこうぎやくと ず 天香玉鬼図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	
	たに ぶんちよう 谷 文晁	いこくせん ず 異国船図	文政12(1829)年	紙本墨摺	掛幅	
	わたなべかざん 渡辺崋山	ちゅうしゅうほげつごごんりつし 仲秋歩月五言律詩	江戸時代後期	紙本墨書	掛幅	
	わたなべしょうか 渡辺小華	ヒポクラテス像	安政6(1859)年	絹本着色	掛幅	三宅友信賛
	さくらませいがい 桜間青厓	ぶんのうりよしょうず きんこのれい ず 文王呂尚図・三顧之礼図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	
	ふくだはんこう 福田半香	ふう きもちくわん ず 富貴木蓮図	江戸時代後期	絹本着色	掛幅	
	ふくだはんこう 福田半香	きつか こせき ず 菊花湖石図	安政2(1855)年	絹本着色	掛幅	
	ひらいけんさい 平井顕斎	きよくじつほうおう ず 旭日鳳凰図	嘉永2(1849)年	絹本着色	掛幅	
	やまもときんこく 山本棨谷	つきなみふうぞく ず びようぶ 月次風俗図屏風	慶応3(1867)年	紙本着色	屏風	
参考 出品	たぎきそうらん 田崎草雲	とくがわじゅうかくか しん ず 徳川十六家臣図	明治時代	絹本着色	掛幅	
	わたなべかざん 画 たいはくどう こげつ 太白堂孤月編	とうかしゆんじよう 桃家春帖	天保7(1836)年	紙本墨摺	冊子	
	つばき ちんざん 椿 椿山画 太白堂孤月編	とうかしゆんじよう 桃家春帖	嘉永2(1849)年	紙本墨摺	冊子	
	うたがわひろしげ 歌川広重	とうとおおてんまがいほんえいの ず 東都大伝馬街繁栄之図	江戸時代後期		版画	
	歌川広重	とうとめいしりようごくぼしはなびの ず 東都名所両国橋火花之図	江戸時代後期		版画	
	歌川広重	りょうごくのうりょうおほはなび 両国納涼大火花	江戸時代後期		版画	
	歌川広重	にほんみなとづくし とうと え ど ぼし 日本湊尽 東都江戸橋	江戸時代後期		版画	
	さいとうげつしん 斎藤月岑著 はせがわせたん 長谷川雪旦画	え ど めいしよ ず え 江戸名所図会	初版:天保5(1834)年・ 天保7(1836)年	紙本墨摺	冊子	
	斎藤月岑著 長谷川雪旦画	とうとさいしき 東都歳時記	天保9(1838)年	紙本墨摺	冊子	展示期間 5月8日(木)～6月1日(日)
	きよくていばきん 曲亭馬琴	なん そうきとみほつてんでん 南総里見八犬伝	江戸時代後期	紙本墨摺	冊子	展示期間 4月12日(土)～5月6日(火)

重文＝重要文化財 市指＝田原市指定文化財 全て当館所蔵

田原市博物館

<作者紹介>

渡辺華山 寛政5(1793)年～天保12(1841)年

渡辺定通の長男として、江戸に生まれました。はじめ平山文鏡に師事し、白川芝山、金子金陵、谷文晁らに絵を学びます。華山は写実的な描写にこだわりました。特に肖像画を得意とし、西洋の陰影法を巧みに使い、独自の画風を確立しました。また重要文化財「一掃百態図」(当館蔵)など、当時の文化や風俗を伝える資料が残っています。

谷 文晁 宝暦13(1763)年～天保11(1840)年

田安家家臣で詩人でもあった谷麓谷の子として江戸に生まれました。はじめ加藤文麗、渡辺玄対に絵を学びました。寛政4(1792)年、田安家出身の白河藩主松平定信の近習となり、『集古十種』などを編纂しました。当時の画壇の重鎮として活躍し、渡辺華山をはじめ多くの弟子を輩出しました。

金子金陵 生年不詳～文化14(1817)年

旗本である大森勇三郎の家臣。絵を谷文晁に学んだとされ、沈南蘋風の花鳥画を得意としました。渡辺華山が書いた「退役願書稿」(当館蔵)によると、華山は白川芝山の画塾の授業料が払えず破門されます。そのため父の紹介により金陵の弟子となりました。華山、椿椿山の師として知られています。

曲亭馬琴 明和4(1767)年～嘉永元(1848)年

本名は瀧澤興邦で、滝沢馬琴と呼ばれることもあります。馬琴は江戸時代後期のベストセラー小説『南総里見八犬伝』の作者です。馬琴の息子、滝沢琴嶺が渡辺華山と同じ金子金陵の弟子であることから交友がはじまりました。馬琴と華山は本を貸し借りする仲でした。

桜間青厓 天明6(1786)年～嘉永4(1851)年

岡崎藩主本多家に仕えた岡崎藩士です。渡辺華山・椿椿山と交友していました。青厓が描く山水画は「山水は我青厓に及ばず」と華山に言われるほど得意でした。蛮社の獄で華山が捕らえられた際に、華山の釈放に尽力した一人です。

歌川広重 寛政9(1797)年～安政5(1858)年

本名は安藤重右衛門。定火消(江戸幕府が設置した消防組織)を務める安藤源右衛門の長男として生まれました。歌川豊広に入門し、文政元(1818)年に一遊斎

という号でデビュー。「東海道五十三次」や「江戸名所」などのシリーズを発表しました。また短冊状の花鳥画や肉筆画も描いています。

福田半香 文化元(1804)年～元治元(1864)年

遠江国見附(静岡県磐田市)で生まれました。はじめ掛川藩の絵師村松以弘、続いて勾田台嶺に絵を学びました。天保4(1833)年、田原に帰郷中の渡辺華山を訪ね、その後華山の弟子になります。半香は花鳥画も描きましたが、山水画を得意としました。

平井顕斎 享和2(1802)年～安政3(1856)年

遠江国川崎(現在の静岡県牧之原市)に生まれました。はじめ掛川藩御用絵師の村松以弘に、のち江戸に出て谷文晁、渡辺華山に師事しました。顕斎は華山の作品を丹念に模写し、山水画を最も得意としました。重要文化財の渡辺華山筆「芸妓図」(静嘉堂文庫美術館蔵)は顕斎へ贈られたものです。

山本栞谷 文化8(1811)年～明治6(1873)年

石見国津和野(現在の島根県津和野市)で生まれました。はじめ津和野藩家老の多胡逸斎に絵を学びました。江戸へ出府後、渡辺華山の弟子になり、天保11(1840)年には椿椿山へ入門します。嘉永6(1853)年、津和野藩絵師になりました。山水画や人物画を得意としました。

鈴木鷺湖 文化13(1816)年～明治3(1870)年

下総国(現在の千葉県)の農家に生まれました。名は雄、晩年に鷺湖と称しました。江戸に出て谷文晁に絵を学びました。谷文晁の画風を受け継ぎ、代表作に「蜀の栈道図」(千葉県立美術館蔵)などがあります。次男に石井鼎湖、孫に石井柏亭がおり、3代にわたって画壇で活躍しました。

渡辺小華 天保6(1835)年～明治20(1887)年

渡辺華山の次男です。小華が7歳の時に、父である華山が亡くなりました。その後、椿椿山の画塾に入門し、花鳥画の技法を学びます。22歳の時、兄の立の死後、渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就きました。明治維新後、内国勸業博覧会への出品や明治宮殿の杉戸絵などを制作しました。